OB戦特集

現役時代汗を流したグラウンドでの最後のOB戦

野球部

8月13日、本校グラウンドにおける最後のOB戦を開催。コロナ禍を経て令和元年以来6年ぶりの復活です。

様々な世代のOB・OG約50名（試合出場は30名程）が集まり、3年生・大学生のキレのあるプレーや、一中堅・ベテランOBの「らしい」プレーで大いに盛り上がりました。特に投手陣は若手もベテランも素晴らしい投球で、OB戦らしからぬ（？）引き締まった試合展開でした。またOB・OGによる主審やアナウンスも本格的で、かなり臨場感のある試合になりました。

伊那北野球部という共通点で繋がる先輩後輩が絆を深められることがOB戦の良さで、現役監督として参加した私にとっても、OBと教え子が一緒に野球をする姿は格別です。

新校閉校後、野球部の活動は現弥生ヶ丘高校第2グラウンドに移ります。場所は変わりますが、OB・OGが繋がる対戦、30歳未満チームが5トライを挙げる展開でしたが、ノーサイド間際に30歳以上チームが意地のトライを決め会場は大いに盛り上がりました。

試合後は恒例のボール下での記念撮影に加え、ボールを全員で一斉に大空へ投げるセレモニー（写真）で盛り上がり、試合後の懇親会でも世代を超えた交流を深めました。

本校ラグビー部は今年で創部74年を迎えました。現在は部員の減少により合同チームとしての活動となっていますが、最近新人部員を獲得し新校に向けてチームは着実に活気を取り戻しつつあります。今後もラグビーの魅力を少しでも多くの高校生に伝えたいと思います。

〈監督　有賀政春（高52）〉

ラグビー部

8月15日、青空の下OB戦が行われました。今年は本校グラウンド最後ということもあり、例年よりも多い約60名が県内外から参集。なんと最高齢は76歳。試合は30歳未満チームと30歳以上チームによる対戦。30歳未満チームが5トライを挙げる展開でしたが、ノーサイド間際に30歳以上チームが意地のトライを決め会場は大いに盛り上がりました。

試合後は恒例のボール下での記念撮影に加え、ボールを全員で一斉に大空へ投げるセレモニー（写真）で盛り上がり、試合後の懇親会でも世代を超えた交流を深めました。

本校ラグビー部は今年で創部74年を迎えました。現在は部員の減少により合同チームとしての活動となっていますが、最近新人部員を獲得し新校に向けてチームは着実に活気を取り戻しつつあります。今後もラグビーの魅力を少しでも多くの高校生に伝えたいと思います。

〈監督　有賀政春（高52）〉

試合前半は、全体を8チームほどに分けてのミニゲームで交流を図り、後半は近い世代で4チームほどに分けての11対11の試合を行いました。

高校時代に汗を流したグラウンドでの最後のプレー。淋しさも感じながら、久しぶりの仲間とのひとときを過ごせたのではないかと思います。試合後の懇親会にも70名ほどが参加され、更に親睦を深めました。来年以降も開催し続けていきたいと思います。

新校になっても伊那北サッカーの伝統と「雄心強く」の精神は引き継がれていきます。

〈監督　宮下　翔（高55）〉

サッカー部

弓道部　OB・OG会開催

元顧問 北原明先生を囲む

伊那北高等学校弓道部は、1962年10月に柴舞治郎先生が中心となって創部され、本年で63周年を迎える。

今回、北原明先生（高10）が顧問であった高30～35回の弓道部員32名が集い、作年7月20日（日）、弓道部OB・OG会を開催した。81年のインターハイ県大会で団体・個人ともに優勝して全国大会に出場した仲間達だ。伊那弥生ヶ丘高等学校との統合を控えて解体間近となった校舎見学に合わせ、本校弓道場において有志による演武も実施。

その後、高遠さくらホテルに移動し、恩師の健康を喜ぶとともに、旧友が久しぶりの交流を深めた。

〈澤田正明（高34）〉

昭和30年（1955年）野球部の甲子園初出場を契機に発足した関西同窓会は今年度70周年を迎えました。その節目となる令和7年度定期総会が11月8日（土）、大阪市内で開催されました。会場の中央電気倶楽部は、大正3年（1914年）に電気関係者によって設立された由緒ある社交倶楽部です。会の冒頭、加藤道彦会長（高18）は、同倶楽部が「松下幸之助氏が有名な「水道哲学」を素明した場所」であることを紹介されました。

今年度の定期総会・懇親会のテーマは、"次の世代へつなげる"こと、恒例の同窓生による講演では、若手代表として西垣内渉さん（高53）が登壇し、「蕨ヶ丘から夢洲へ～"一日一生"の精神で紡ぐキャリアー」と題して講演されました。東京大学卒業後、関西の読売テレビ局員を経て、大阪・四條畷市マーケティング監としての経験、そして現職で大阪・関西万博の広報に携わるまでの歩みを語ってくださいました。講演後の質疑応答では、「同窓会を活性化するには」との問いに、マーケティングの視点から「ターゲットを明確にすること」「参加するメリットを説明できること」といった助言をいただきました。

関西同窓会総会開催

創立70周年の節目を祝う

また、10年前に関西同窓会で、故郷について学ぶ「大阪伊那塾」が開講されたように、世代間・異業種間交流の利点を活かして、会員の得意や興味を結び付ける"学びの基盤づくり"について、西坪内さんから新たな提案もありました。過去ではなく、未来に目を向けた同窓会の価値を模索するものであり、みんなのワクワク感を育てる取り組みとして実現されればと思いました。

講演会の後は、国会議事堂の赤じゅうたんを思わせるレトロな館内を移動し、食堂で懇親会が行われました。乾杯に続き、来賓の岩崎靖同窓会事務局長より「同窓会資料に残る関西同窓会の歴史」につい紹介がありました。「支部会便りで最も古いのは、「會誌」第4号（昭和5年）に京大生が開いた「京都伊那中会」の記事だったとのことです。この70周年総会報告もいずれは貴重な歴史資料になるかと思うと感慨深いです。歓談の合間には、参加者によるスピーチも行われて交流が一層深まり、最後は全員で校歌を斉唱して会を締めくくりました。

会を通じて感じたのは、「伊那北同窓生の話は本当におもしろい」ということです。伊那谷のおおらかな風土で育まれた「よく考え、まずやってみる」精神が根底にあり、好奇心に満ちた先輩・同輩の言葉はどれも含蓄に富み、とても励まされる思いがしました。

〈坂井香織（高44）〉